

専門研修プログラム名	帆秋病院 精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	帆秋病院	
プログラム統括責任者	帆秋 伸彦	

専門研修プログラムの概要	<p>民間精神科病院が基幹病院である本プログラムは、我が国の精神科病床のほとんどが民間精神科病院であるという現実に即し、地域社会に根ざした臨床実践的な内容のプログラムを目指している。この地域の中核的な精神科病院として60年近い歴史の中で培われてきた精神科医としての基本的な倫理性や患者への思い、疾病に対する学問的な態度などを知ることができる。急性期から慢性期、児童から老年期、任意入院から措置入院など3年間のプログラムの中で各施設をローテートすることによって多彩な症例を経験することができる。また幅広い地域社会の中での実践活動をおこなっており、社会で生活する精神障害者をどのように支えるのかといった、これからの我が国に求められる社会福祉、地域医療の現場を実際に体験することができる。</p>	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	<p>専攻医研修マニュアルに沿って各施設を次のようにローテーションし、年次ごとの学習目標に従った研修を行う。初年度は主にコアコンピテンシーの習得など精神開始としての基礎的な素養を身につける。患者及び家族との面接技法、疾患の概念と病態理解、診断と治療計画、補助診断、薬物・身体療法、精神療法、心理社会療法、リハビリテーション、関連法規に関する基礎知識を学習する。2年次は主にリエゾン・コンサルテーションを中心とした特殊な病態について学習する。統合失調症、気分障害、精神作用物質による精神行動障害などそれぞれの疾患がもつ特徴を把握して、個別の対応を学習する。他科と協働して一人の患者に向き合うことで、チーム医療におけるコミュニケーション能力を養う。症例発表、論文作成に取り組む。3年次には各施設において指導医のスーパーバイズを受けながら入院患者の主治医となり、責任を持った医療を遂行する能力を学ぶ。地域社会で生活する統合失調症患者、認知症患者に対する支援を訪問看護、訪問診療を通じて体験する。</p>	
	<p>修得すべき知識・技能・態度など</p>	<p>1) 患者及び家族との面接、2) 疾患の概念と病態の理解、3) 診断と治療計画、4) 補助検査法、5) 薬物・身体療法、6) 精神療法、7) 心理社会的療法、8) 精神科救急、9) リエゾン・コンサルテーション、10) 法と精神医学、11) 医の倫理、12) 安全管理・感染対策 全ての研修期間を通じて児童思春期精神障害、アルコール薬物依存症の症例が学べる</p>
	<p>各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得</p>	<p>すべての研修期間を通じて、自らの症例を提示して、カンファレンスなどを通して病態と診断過程を理解し、治療計画作成の理論を学ぶ。経験した症例について特に興味関心があったものについて、九州精神神経学会などの発表を行い、また学会誌などへの投稿を行う。日本精神神経学会には可能な限り参加して、最新の学術動向について理解を深める。</p>

専攻医の到達目標	学問的姿勢	専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。患者の日常的診療から浮かび上がる問題を日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決できない問題についても、積極的に臨床研究や基礎研究に参加することで、解決の糸口を見つけようとする姿勢が求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とする。その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの自ら学び考える姿勢を心がける。大学病院や総合病院（基本的に2年目、3年目）では他科の専攻医とともに研修会が実施されており、リエゾン・コンサルテーション症例を通して身体科との連携を持ち医師としての責任や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	1年目から基幹病院において、日本精神神経学会や関連学会の学術集会や各種研修会、セミナー等に参加して医療安全、感染管理、医療倫理、医師として身につけるべき態度などについて履修し、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）を高める機会をもうける。法と医学の関係性については日々の臨床の中から、いろいろな入院形態や、行動制限の事例などを経験することで学んでいく。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	1年目：指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学ぶ。2年目：指導医の指導を受けつつ、自立して、面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的な精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。3年目：指導医から自立して診療できるようにする。認知行動療法や力動的な精神療法を上級者の指導の下に実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。
	研修施設群と研修プログラム	プログラム全体の指導医数33人 研修基幹施設：帆秋病院 研修連携施設：九州大学病院・大分大学医学部附属病院・大分県立病院・九州医療センター・福岡県立精神医療センター太宰府病院・小倉医療センター・飯塚病院・山本病院
	地域医療について	病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療、地域医療などでの医療システムや福祉システムを理解する。
専門研修の評価	専攻医に対する指導内容は、統一された専門研修記録簿に時系列で記載して、専攻医と情報を共有するとともに、プログラム統括責任者（帆秋伸彦）およびプログラム管理委員会で定期的に評価し、改善を行う。	
修了判定	研修基幹施設の研修プログラム管理委員会において、知識・技能・態度それぞれについて評価を行い、総合的に修了を判定する。	
	専門研修プログラム管理委員会の業務	研修プログラムの作成や、プログラム施行上の問題点の検討や再評価を継続的に行う。また各専攻医の統括的な管理（専攻医の採用や中断、研修計画や研修進行の管理、研修環境の整備など）や評価を行う。

専門研修管理委員会	専攻医の就業環境	<p>基幹施設の就業規則に基づき勤務時間あるいは休日、有給休暇などを与える。勤務（日勤）8：30～17：30（休憩60分）当直勤務17：00～翌9：00休日①日曜日②国民の祝日③法人が指定した日。年間公休数は別に定めた計算方法による。年次有給休暇を規定により付与する。その他慶弔休暇、産前産後休業、介護休業、育児休業など就業規則に規定されたものについては請求に応じて付与できる。それぞれの連携施設においては各施設が独自に定めた就業規定に則って勤務する。ただし自己学習日についてはいずれの施設においても出勤扱いとする。また本プログラム参加中の者には精神神経学会総会、同地方会、日本精神科医学会への出席にかぎり交通費を研修中の施設より支給する。</p>
	専門研修プログラムの改善	<p>研修施設群内における連携会議を定期的に行い、問題点の抽出と改善を行う。専攻医からの意見や評価を専門医研修プログラム管理委員会の研修委員会で検討し、次年度のプログラムへの反映を行う。</p>
	専攻医の採用と修了	<p>精神科領域専門医制度では、専攻医であるための要件として①日本国の医師免許を有すること、②初期研修を修了していること、としている。この条件を満たすものにつきそれぞれの研修施設群で、専攻医として受け入れるかどうかを審議し、認定する。修了要件としては、日本専門医機構が認定した精神科専門研修施設で、精神科専門研修指導医の下に、研修ガイドラインに則って3年以上の研修を行い、研修の結果どのようなことができるようになったかについて専攻医と研修指導医が評価する研修項目表による評価と、多職種による評価、経験症例数リストの提出を求め、研修プログラム統括責任者により受験資格が認められたことをもって修了したものとする。その際の修了判定基準は到達目標の達成ができているかどうかを評価することである。</p>
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	<p>日本専門医機構による「専門医制度新整備指針（第二版）」Ⅲ-1-④記載の特定の理由のために専門研修が困難な場合は、申請により、専門研修を中断することができる。6か月までの中断であれば、残りの期間に必要な症例等を埋め合わせることで、研修期間の延長を要しない。また、6か月以上の中断の後、研修に復帰した場合でも、中断前の研修実績は、引き続き有効とされる。他のプログラムへ移動しなければならない特別な事情が生じた場合は、精神科専門医制度委員会に申し出ることとする。精神科専門医制度委員会で事情が承認された場合は、他のプログラムへの移動が出来るものとする。また、移動前の研修実績は、引き続き有効とされる。</p>
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	<p>研修プログラムは常に外部からの評価により改善されなければならない。そのためには各施設の研修委員会には医師のみではなく、メディカルスタッフも参加することとし、時には第三者の参加も求めることができる。</p>
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。	<p>帆秋伸彦（帆秋病院・理事長・院長）、櫛田寿量（帆秋病院・副院長）、丸山義博（帆秋病院・診療部長）</p>	

Subspecialty領域との連続性	精神科サブスペシャリティは、基本的には精神科専門研修を受け、精神科領域専門医となった者がその上に立って、より高度の専門性を獲得することを目指すものとする。
---------------------	---